### 慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	戸原四郎著 ドイツ金融資本の成立過程
Sub Title	
Author	大島, 通義
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1960
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.9 (1960. 9) ,p.809(71)- 810(72)
JaLC DOI	10.14991/001.19600901-0072
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19600901-0072

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 新刊紹介

## ――明治以降の展開過程――『日本 林業発達史調査会編

本書はその副題が示すことく日本林業の明治以降の展開過程を検討叙述したものである。本書全体の構想は「本史の編集について」な。本書全体の構想は「本史の編集について」に述べられているが、それによれば、第一編は「日本資本主義の生成期における経済情勢は「日本資本主義の生成期における経済情勢は「日本資本主義の生成期における経済情勢は「日本資本主義の経済のなかに林業を位置づけて叙述」され、とくに「林野所有の形成過程」を中心に、第二編は「資本主義の発展期における林業」が取扱われ、とくに明治三十年の森林法の成立過程、及び明治四十年の同法改正経過とそれを要請した林業の生産事情が分析叙述される。(以上本巻に含まれる)未刊行ではあるが、第三編において第一次大戦の影響をうけ変転する組織に、第二編は戦後の変革経済下における林業が、第三編は戦後の変革経済下における林業の構移が、第五編は戦後の変革経済下における林業の構移が、第五編は戦後の変革経済下における林業の構移が、第五編は戦後の変革経済下における林業の構想が、第五編は戦後の変革経済下における林業の構想が、第五編は戦後の変革経済下における林業の構想が、第五編は戦後の変革

あるといいえよう。 本株業の全貌を明白にせんとする一大労作で本資本主義の生成―発展に即して検討し、日で、本書は明治以降の日本林業の史的展開とて、本書は明治以降の日本林業の史的展開と本株業の全貌を明白にせんとする一大労作であるといいえよう。

業の史的展開を日本資本主義の生成―発展―― 、強烈の全過程に即じて把握せんとするもので 成烈の全過程に即じて把握せんとするもので が計るや否や、すべての生産業はその影響下 におかれ、資本主義への道を歩みはじめる。 におかれ、資本主義への道を歩みはじめる。 はいちじるしく特殊な事情が存在していると はいちじるしく特殊な事情が存在していると ころから、資本主義への道はけわしい。かか る特殊な事情が、具体的に、発展の相において で検討さるべきである。

に成立をみたわが国林業所有の区分を上台と形態が問われる(第一編)。さらに、明治初期前提となった幕藩体制下における林野の存在林野と私有林野)の形成過程と、この形成の存在する官有林(国有林と御料林)と民有林 (公有まず資本主義生成期に即して明治初期におまず資本主義生成期に即して明治初期にお

ぜられ(第二編)、筆者はわが国林年「森林法改正」森林組合等多く 開発の促進、民間林業経営の開始、 げていることとをとくに強調してい 残存が、わが国近代林業の合理的な展開を妨 収奪の持つ意義と、封建的諸関係の強固 色づけるものとして、 制定の背景、 林業経営が展開する。 日本資本主義が発展期に入ると共に、 成立過程、その性格、 筆者はわが国林業発達を特 国家権力の強大、 明治三十年 の事実が論 「森林法」 明治四十 る。 国有林の 林野 なる。

七七九頁・頒価調査会編集発行・ の労苦に なされ 関及び直接研究執筆に従事し されていることくであるが、高村象平氏の校をみるに至った経過については「序」に詳述とって、貴重なる研究である。本研究が完成 が国林業の研究者にとって、 よって貫ぬかれていると云ってよい。今後わなされたものであって、概ね公正なる見解に 収し、現存諸資料を綿密に探究分析した結果 本書における叙述は、過去の業績を参考吸 対し 敬意を表したい 頒価一二〇〇円) ·昭和三十 五年三月・A5 又政策担当者に た宇治順一郎氏 (林業発達

-島崎隆夫-

### 『ゆたかな社会』 鈴木哲太郎訳

たら 費者主権」が確立していること等々。 では個人の思うままなる選択にまか を保証する最大の手段であること。 ぬ問題であること。 学の伝統的な考え方がいつのまにか経済の実 ズは述べたものだが、ここでは反対に、 経済学者の言ったことが取りい 無意識のうちに経済学の教える理論ある を戒めている。では通念とはなにか。 conventional 勢から置きざりにされ、 |解しているとおもっているうらには、実は実業家たちが自分独自の経験判断で経済を の基本原則のなかにひそむ いている、 wisdom. といった意味のことをケイン 生産拡張は経済界の安定 に変ってしまうこと 因襲的な「通念」 抜きさしなら れられ立ちは 自由社会 せる「消 貧困が 経済 い は は

り、政策的に解決可能な問題なのだ。極貧階類実を認識してもらわねばならぬ。たとえば現実を認識してもらわねばならぬ。たとえばのたがないないなどののながである。などないではないな社会。A田uent society はこうし

説明原理とならなくてはならぬ。 ヶ 者の欲望は生産者自ら造りだす。 を意味する。 産 安定な安定はないはずだ。もしそれがゆたか 拡張は相つぐ生産拡張によってのみ経済安定 免れえない ず S) 活水準は高まり 관 ちで 生産者の直接支配下におちこむ「依存効果」 のデモンストレーション、 な社会で維持しえて を維持できるものだとすれば、これほど不 いは完全雇用のための生産拡張は、 者の消費者への誘惑によるものにちがい の保障と資源配分の合理性とのどっちつか の混合を来たし、 生産に次ぐ生産は同時に宣伝につぐ宣伝 あり、 の 所得分布 エア確保競争と並んで、 のが現実となりつつある。 消費者主権は幻影であり、 effect がマクロの経済運動の ので かつ規格化されている。 慢性インフレの脅威から って富豪 は必ず いるとすれば、それは生 は決して 企業対企業のマー ないほどに、 事 たー 消費者同士 等で 安定のだ 消費者が 生産の ある 消費 ŋ **l**, な 生 う

か。私的消費と公共消費たと えば教育、医い。生産と経済保障とをいかにして分離するゆたかな社会は決して問題なき社会ではな

著者は強調する。 か等。しかもこれか等。しかもこれ 6・三四一頁・三七〇円) ンを含んだ読み物である。 **ってして** まことにゆた は扱 らの ラ ソ いえな 問題 ス を は伝統的経済が (岩波書店刊 と かなヴィジ う こ 学のの とを B

### -大熊一郎-

### 戸原四郎著

# 『ドイツ金融資本の成立過程』

原氏も、 た研究が 書は、それ たが、 成したものである。 などで関心ある人々に注目されてい 氏などの業績をはじめとして幾つかのすぐれ 実証的成果の比較的乏しいことを敷かれてき り、学ぶべき点を多く持っている れた豊富な資料を基礎に構成された研究であ 金融資本成立史研究の分野では、 最近、 すでに、 生みだされてきた。本書の著者、 らも含めて、 生川栄治・大野英二・鎌田正三 この分野に関する雑誌論文 著者が欧州留学中 著者の研究成果を集 従来その たが、 戸 本

析の対象とした大野氏の「ドイツ金融資本成同じようにドイツ金融資本の成立過程を分

七一(八〇九)

供しているといえよう。

していたのと異なっており、また、大野独占の形成とその金融資本への転化を問ツ金域について、主要な産業諸部門にお 書物の後半が当時の経済政策の分析にあて いる。この点も、大野氏の書物が、一応ドイ実証的に分析することが本書の目的とされて うごとに問題を限定し、ここにおいて産業資方における重工業と銀行との関係の発展とい 期をへて金融資本が成立するに至る過程」を 本が成立・発展し、さらに大不況という過渡 いわゆる「宇野理論」に立脚して分所を谩用立史論」(有斐閣刊)とは異なり、戸原氏は 本について分析すること、成立した金融資本 論の課題をなす」と考えている。そして、そ 従ってい「帝国主義段階に特有な」それを明ら に特有な資本の類型」を明らかにすること、 かにすることが、 を分析すること、の二点が強調される。こ 性格を明らかにするために、成立に至る過 最も典型的な発展のみられるドイツ金融資 ためには、資本主義の世界史的な発展段階 ような視点に立って、「ドイツのル なわち、「正しい現状分析をおこな に対して、 の時期の状況を理解するための 「段階論としての 金融資本 戸原氏の場合は、 東の分析にあてら さた、大野氏の への転化を問題に 来諸部門における の政策 ル地

> 世紀初頭の「金融資本段階の成立」の三つに 観として取上げられるにとどまり、 三七七頁: の移行」の時期と、一九世紀九〇年代と二〇 以前と、一八七〇~八〇年代の「金融資本へ 資本の成立と発展」の時期として一八七〇年 両者は異なっている。なお、全過程は、「産業 **礎過程の分析に主力が注がれている点でも、** わけて論究されている。 九〇〇円) (東大出版会·A5 経済の基

## 島通義|

### 吉H・ 田ルフェ \_ カ マル クス

**∀**Te へ、『資本論』、結論、からなり、まさに 〃∀の生活と著作、『共産党宣言』から『資本論』答は序論、誕生から『宣言』までのマルクス Karl Marx, ルクスの思想を知るために』 重要な材料を提 党を除名され話題をまいた Henri Lefeb-哲学者でありながら、 の書は、フランスの著名なマルク

ており、

。 静<sub>i</sub> ヴ 一ル訳著 そ の思想形成史

Marx, 1947. を訳したものである。内 修正主義者として共産 まさに!マ ス主義

るが、デカルト、

目を集めているのだ。 作を扱っては、独自の考察を加えて読者の注 し、哲学批判から経済学批判に至る初期の著 ての偏見を一つ一つ取り上げて分析している マルクス主義と祖国、 **う積極的な態度が強く感じら** 単なる概説書ではなく豊富な問題提起に満ち 主義などについて多くの著作を持つだけに、 凝縮したかたちで提示することといわれて 水準で、マルクス主義学説全体をできるだけ という言葉、 執筆のねらいは、入門書と専門書の中間 また出された問題と対決しようと 個人の役割、理想、 バスカル、ディドロ、 宗教、科学性、唯物論 れる。序論で などについ II

また『宣言』を読むにあたっては、その発式をもとめるべきではない」(一九四頁) し、 式をもとめるべきではない」(一九四頁)し、の貧困』にマルクス主義的唯物論的方法の定 おいて再発見されたと説く。 そこで「『哲学弁証法は放置され、それは「経済学批判」にロギー」においては、唯物論に没頭したため、 的な疎外論であると云い、 されたものは矛盾の弁証法理論ではなく哲学 たとえば、「経哲手稿」でヘーゲルから継承 『経済学批判』に先んずるこ ¬ イツ・イデオ

その内 されうるという立場から、マルクスの比較的想はその展開の中でのみ研究され得るし理解 まれて 初期の作品を、マルクス主義の形成過程にお 学的分析と科学的認識、 B6・三四六頁・三九〇円) の政治的可能性の科学的分 と努力したことにある。へミネルヴァ書房・ たことを忘れて ただこのあとの著書の その運動過程の中において位置づけよ 门的運動、 いる」(二三九頁)ということが強調だこのあとの著書のなかにのみ、ふく この書の特色は、展開しつつある思 巻に先んずるこ ロレタリア はならない。資本主義の すなわちその構造、 析 と科学的認識 トの地位、そ 一五年で

白井

### 紅W 林M が・デイシ 夫上訳著

## 『現代イギリス銀行論』

行顧問である。 改訂版によっている。デイシー氏はロイズ銀 Mechanism (1958) である。 年に出版されているが、本訳書は五八年の 本書の原著名は The British Banking

> 機関金体としての資金の流れに焦点が合わさき、サンクは資金のやりくりに力点がおかれており、バンタ金のやりくりに力点がおかれており、バンタ金のやりくりに力点がおかれており、バンタ金のやりくりに力点があれまかれまである。 金融というと、とかくフィナー教科書である。 金融というと、とかくフィナー カラ る。 意味では内容は題名を極めて忠実に果して れる。 クリ リというのが題名の意味であり、こそのメカニズムだから、資金の流れ とっては好適な金融論の と の の

要性を認めている。この解明は英国金融市場 を示している。この意味で金融市場資産の重 の理解の為の要となることを筆者は力説し 証券の割引に主役を演ぜしめるに至ったこと め、その市場が商業手形の割引から、 る。 筆者は英国金融市場の特質を割引市場に求 大蔵省 7

る。 替の問題―為替平衡資金―が 論 ぜら れて い接な関係をもっていたので、その観点から為を引離して考えられない程国際金融市場と密 同時に英国の金融市場は国内金融市場だけ

ンソ 金融事実について、英国人には耳なれた、 英国人にとって好適と述べた理由は英国の **\_** ルド・エッヂ、 テ

> も加えられていたらと思われる点がある。を倍加するという点もある。これは訳者冷難さ――理解出来ないというのではない― が何か分らぬということから生ずる理国の金融事情に通じでいるのでなけれ 外国人が読むためのものである――ている。しかし、一方外国人には-も豊富にもら は訳者注で 経解の困 物・英は

えば、銀行家の間で投資といったら証券投資点で訳注でもあればと思われる点がある。例 れて あったらと思われる。 のことであるが、理解されはするが、説明が 又実務家の手になり、 いる為極めて当り前のこととされて 実務家によって訳さ Į, る

に忠実でありすぎる感が強い。〈東洋経済 与えるのにと思われる。その意味で訳が原著 おしまねばより多くの人により多くの理解を よい本であるだけに訳者がもう少し労力 一九六頁・ 四五〇円) 新

紹 介